

第2回伊勢市特別職報酬等審議会 議事概要

1 日時

平成31年1月31日（木）13時30分～15時30分

2 会場

伊勢市役所 東館4階 4-3会議室

3 出席委員

伊藤 由佳委員、岩崎 良文委員、加藤 徹也委員、竜田 和代委員、
東 剛寛委員、前田 政吉委員、山本 誠委員

4 欠席委員

なし

5 出席職員

職員課長、職員課副参事、職員課給与厚生係長、職員課給与厚生係主事

6 議題

市長、副市長及び教育長の給料の額並びに市議会議員の報酬の額について

7 会議内容

(1) 追加資料の説明

以下の資料について、事務局が説明した。

ア 第1回伊勢市特別職報酬等審議会の意見の概要

イ 平成23年度の伊勢市特別職報酬等審議会の意見の概要

ウ 平成21年度の伊勢市特別職報酬等審議会の意見の概要

エ 平成24年度以降の伊勢市議会の主な取組

オ 伊勢市特別職の報酬月額等の平成23年度との比較

カ 三重県の市町民経済計算（平成27年度 平成30年6月公表）

説明概要 平成23年度の審議会では、厳しい経済情勢や一般職の2年連続の引下げ等から、特別職についても同等の引下げが適当との答申を頂いた。

平成24年度以降の伊勢市議会の主な取組は、定数を2人削減したことと、議会基本条例制定等の議会改革。

平成 23 年度と現在では、報酬月額等は引下げであるものの、期末手当の支給割合が増えているため、年収では増額となっている。

伊勢市の市民所得は、増加傾向だが、非常に緩やかである。

(2) 審議（概要）

委員の意見

- ・ 責任の重大さも含め、前年対比で云々だけでなく、現状の額自体がどうという議論までしたのか？そこで議論がなされていれば、現状を認めるということもできるが。現状がいいのかという議論になると、答えが出ない。
- ・ 平成 23 年度は、人事院勧告により減額を考えなければ、という前提での開催。市の職員も減額し、失業者やリストラの増加、所得減少者が多い社会の中で、人事院勧告のパーセンテージで減額ということでみなさんが賛同された。みんなが大変なのだから、市長さん方もそうしてもよいのではということだったのでそうなったと記憶している。

今回は、三重県内が据置とか、特に、伊勢市は昨年災害があったが、他で特に上向きとか下向きとかがなく、見通しが立っているのなら、据置でもいいかこの資料を見た中では思った。

- ・ 市長は、すごく頑張っているのではと。私はどちらかという高くしてあげたいくらいに思っているが、諸事情があるのだろう。全体から見てどうこうというのも1つだとは思いますが、意見としてだけだが、鈴木市長としては、随分進化されていて、給料もずっと変わっていないということは、その中でやっていただいているとは感じている。ただ、今回、こんなに頂いているのかとは思ったが。
- ・ 確かに、伊勢には伊勢の特異性というか、通常の行政にないものがあると思う。色々な行事、民俗行事もある。沢山頂いてもらえばいいが。
- ・ 落とすどころがあるにしても、とてもよくしていただいているという意見があったと入れていただけると私は嬉しい。
- ・ 漠然と言うと、財政的には問題はなく、経済情勢も、統計上の給与所得も、ほぼその前と変わらない状態に戻ってきたように見える。統計上

からすると特に伊勢市としては今のところ問題はないと。職員の給与所得も上がっている。ただ、当時と比べて、職員のモチベーションの問題がある。職員の給与をもっと深く掘ってみると、まだその当時まで戻っていない、という現実もある。にもかかわらず、特別職の報酬をその当時まで戻すのか、という問題があるので、我々役員としては、まず、職員の給与をきっちりとしてあげてから、自分の給与や報酬を上げるという打診をすべきと。そう考えると、私は現状のまま据置が妥当かなという思いがある。おっしゃられるように、イベントや色々な場所でパフォーマンスをされているが、数字だけ見て、そういう話はしておかねばならないかと。

- 1円でも上げることがどれだけ難しいかはよく分かっている。「上げてほしい」から始まっているのではなく、「上げたいところを・・・」というのでは、ニュアンスが違うということを申し上げたかっただけだ。
- 前回、審議結果を出すに当たってどんな事項をどのように判断をしたかというストーリーが非常に大切ということが出発点だったと思う。その中で、官民較差をどう考えるか。前回は、雇用の不安や賃金の削減があったり、と社会情勢が悪かったが、それが今どうなったか。それから、もう1つは、議会改革等による特別職の役割や機能的な変化。この3点ぐらいをベースに考えると、賃金や社会情勢はかなり戻ったように思うし、議会改革のところは議員定数を削減したので、プラスに考えてもよいかと。あとは、給与報酬の官民較差のところを戻すのかどうかという議論かと思うが、私は戻すべきだと思う。一方で、期末手当を考えると、年収では一定額増えているので、職員の給与が戻っていない段階で、ここまで戻していいのかとも思っている。
- 議論で難しいのは、期末手当だ。これである程度は較差をアジャストしているか。それをどう判断するか。確かにこれが無いなら官民較差を完全に埋めなければならないと思う。
- 市民の方々も年収が上がったか下がったかが1番気になるところで、そのところを調整しなければならないのでは。この表を見る限りでは、

若干上向しているところも見られるのではないか。それで、ベアは上げないで年収だけの調整をしている。将来の不安定要素もあるので、そういうところで調整がとれるなら、現在の報酬額というのは、できればこのまま据置でよいかと、はっきりと発言させてもらう。

- 答申として市民の方々の感情も考えると、官民較差や議会改革、社会の情勢も、どちらかというところと上げる方向に動いているが、伊勢市は病院への投資もされて、地域の中小企業の方々に至ってはなかなか厳しいというところがあるので、ロジカルに考えれば上げるところだが、いろんなことを総合的に判断して据置という厳しい答申が1番受け入れられるのかなと思った。
- 今、伊勢市は非常に重要な案件、病院のことなど、の判断を特別職に任せている。なので、今はそのままにしておいて、もう少し、2年先に、どういう判断をこの特別職がするかによって大きく変わる時にきていると思う。この際、据置でやっていただくのがいいのかなと私も思う。
- 据置としても、2年後には再度検証するなど条件を付けるか。ただ、市長や議員の働きぶりを検証するとなると、この場でいいのかという議論も出る。選挙自体が検証だが。
- 労働界からすると、月額ベースと賞与は、意味合いは別のもの。民間で言うと、賞与の部分は業績に応じた報酬なので、単年度若しくは複数年度の業績の成果であると考えている。ただ、月収については、労働者の生活を守る基準になっている金額なので、労働界としては別で考えている。それで、どちらも官民較差を基にして決めているということなので、適正かという気もするが、民間の労働者の立場、一般職の立場の目線では、少ない額だとしても増額すべきと思う。伊勢市が色々問題を抱えているという話もあったが、逆に、この理由で据え置いてしまうと、議員や市長がアグレッシブな施策を打ちにくくなるのでは、と思うし、一般職の報酬についても、トップが変わるとか、底上げとか、そういう部分で上がっていくという見方もされるので、頭を抑えて一般職が上がるのを待つというのは、考え方として難しいのかなという気もしている。なので、この経済状況から見ると、伊勢市の市民感情がどうか分からない

いが、少しでも上げたい思いはある。

- ・ 市民感情云々というものを全く考えず、統計をそのままスライドさせてしまうというのも上げる理由としては1番強いと思う。
- ・ 上げるにしても、据置にしても、皆さんが納得いくような理由を見つけなければいけないのかなど。その理由として伊勢市の問題に踏み込むのはちょっと危険かと。
- ・ 多数決で決めるような話ではないので、あくまでも1つの意見として。色々と考えていくと上げるべき項目もあるし、据え置いておくべき項目もある。1つは、前回から今回まで時間があつたので、今回の答申で、本来は官民較差に合わせるべきであるということをはっきりと明確にした上で、しかし、年賃で上がっているの、で、次回の開催のときにもう1回きちんと見直そうという形にして、今回は、給与月額を据え置いて、次回の開催の時期をできるだけ明確にするという案はいかがだろう。
- ・ 基本的な考え方に異議は無いので会長に一任したい。

(3) 答申案の作成等

委員の意見を基に事務局が作成した答申書の原案について、委員が協議し、答申案を決定した。

なお、文意が変わらない範囲内での表現の微調整は会長に一任すること、答申は、会長名で、後日、会長から市長に対して行うことを各委員に確認し、審議終了となった。